

埼玉県人会

母県で伯国をアピール!

地元イベントで関心呼ぶ

パステス、シユラスコも人気

地元埼玉でブラジルを大アピール! 昨年5月、会長に就任した飯島秀昭会長が牽引役となり、「アクションなくして結果なし」をスローガンに活動を進める在伯埼玉県人会は昨年10月、「日本人に真のブラジルを知ってもらおう」と母県で開催された二つの祭りに参加、大々的にブラジルのPRを行った。少年サッカー教室、文化や食べ物を紹介するブースを出展、ガイドブックも配布。さらに、イペーも県庁に植樹した。在日ブラジル大使館、JICA横浜海外移住資料館、エンブラエルも支援し、官民一体となった日伯の交流となった。飯島会長は、「小さな波は立った。今までは掛け声だけだったが、何とか動き出しそう」と手応えを話した。

飯島会長「小さな波は立った」

同県人会は今まで事務所月に2回会合を開いていたが、会館がないこともあり活動は活発とは言えなかった。2008年にあつた同県人会創立50周年・県人移住90周年式典に母県から参加した日伯友好議員連盟の竹並万吉会長(県議)との縁がきっかけで、県人会として同祭りに参加することが決まり、準備を進めてきた。ブラジルからの訪問団は、実行委員長の飯島眞次副会長、日本側は飯島



ブラジルを紹介するコーナーは市民の高い関心を呼んだ。「川越産業博覧会」で。11月1日撮影

飯島会長は「小さな波は立った」と手応えを話した。同県人会は今まで事務所月に2回会合を開いていたが、会館がないこともあり活動は活発とは言えなかった。2008年にあつた同県人会創立50周年・県人移住90周年式典に母県から参加した日伯友好議員連盟の竹並万吉会長(県議)との縁がきっかけで、県人会として同祭りに参加することが決まり、準備を進めてきた。ブラジルからの訪問団は、実行委員長の飯島眞次副会長、日本側は飯島

会長の知人の日系ブラジル人や友人らが手伝いを買ってくださった。飯島会長は16日、上田清司知事や奥ノ木信夫県議会議長を表彰訪問。同知事は、交流に尽力した同県人会の労を労い、「両国親善に大きな励みとなる」と感謝の意を表した。

同県庁中庭に「ヘー」が記念植樹され、さらにブラジル大使館提供の30本の苗木も寄贈された。例年30万人の入場者を数える県最大規模のイベントの一つである「所沢市民フェスティバル」(10月24、25日)では、少年サッカー教室、ブラジル紹介コー

ナーを設けた。同日31日、11月1日には「09川越産業博覧会」でパステスやシユラスコを中心に開いた「ブラジル食コーナー」が多くの人々の関心を集めた。

両祭では、ブラジル紹介コーナーを設け、写真パネルを展示。ブラジル大使館やJICA横浜海外移住資料館、エンブラエル社から支援を受けた



母県でブラジルのアピールした埼玉県人会。母県からブラジル、芸能などが来る例はあなが、逆は珍しいのでは、準備なく、多くの人が配布された。

リオ日系団体で忘年会

300人が賑やかに



荒川総領事(前列右から4番目)と州野球大会で優勝したリオ・ニッケイグループの皆さん

リオ州日伯連盟(鹿田長)は、12月に日系協会会合を開催、リ会が協力した彦在リオ総領出席したほか本商工会議所デ・ジャネイロ化協会、リオデル校、リジャネイロ日などから約3集まった。第5回リジャネイロ州で、二度目のたしたリオチームを紹介か、カラオケAKOISO露され、会場がりを見せた

の段階でも色と県人会の紹介が国で印刷し輸減、イッペーの児島県指宿市でいたのを譲ったブラジル食は日人人が多く住むに販売する世を得たとか。へジルから持参なく、多くの配布された。

も人気

昭会長が牽引役とな
玉県人会は昨年10
祭りに参加、大々的
イスを出展、ガイド
ICA横浜海外移住
島会長は、「小さな
えを話した。

会長の知人の日系ブラジ
ル人や友人らが手伝いを
買ってくださった。
飯島会長からは16日、
上田清司知事や奥ノ木信
夫県議会議長を表敬訪
問。同知事は、交流に尽
力した同県人会の労を労
い、「両国親善に大きな励
みとなる」と感謝の意を
表した。
同県庁中庭にイペーが
記念植樹され、さらにブ
ラジル大使館提供の30
本の苗木も寄贈された。
例年30万人の入場者
を数える県最大規模のイ
ベントの一つである「所
沢市民フェスティバル」
(10月24、25日)
では、少年サッカー教
室、ブラジル紹介コー

1創立40周年。新年の
干支のように、寅のス
ピード感と勇気をもって
活動していこう」とあい

ナーを設けた。

同日31日、11月1
日には「09川越産業博
覧会」でパステスやシユ
ラスコを中心に開いた
「ブラジル食コーナー」
が多く市民の関心を集
めた。

向祭では、ブラジル紹
介コーナーを設け、写真
パネルを展示。ブラジル
大使館やJICA横浜海
外移民資料館、エンブラ
エル社から支援を受けた



の段階でも色々工夫。
県人会の紹介パンフは中
国で印刷し輸送費を削
減、イッペーの苗木は鹿
児島県指宿市で育てられ
ていたのを譲り受けた。
ブラジル食は日系ブラン
ル人が多く住む同地域向
けに販売する業者の協力
を得たとか。全てをブラ
ジルから持参するのでは
なく、多くの人の好意あ
り配布された。

母県でブラジ
ルにルした埼玉
母県からブラジル
などが来る例はあ
逆は珍しいのでは
準備
ブラジルガイドマ
クも

リオ日系団体で忘年会

300人が賑やかに



荒川総領事(前列右から4番目)と州野球大会で優勝したリオ・ニッケイグループの皆さん

尾崎副会長によれば、
「観光地のパネルやブラ
ジルの地図を欲しいとい
う人もいて、断るのに苦
労もした」ほどの人気ぶ
りを見せた。
飯島会長は、「(今回
の参加で)県議会や県議
連などのパイプができ
た。今後は、県人会活動
に共感を得られる人は誰
でも歓迎できる体質に
し、自立していきたい」
と抱負を述べた。

リオ州日伯文化体育
連盟(鹿田明義理事
長)は、12月13日
に日系協会会館で忘年
会を開催、リオ日系協
会が協力した。荒川吉
彦在リオ総領事夫妻が
出席したほか、リオ日
本商工会議所、リオ・
デ・ジャネイロ日伯文
化協会、リオ日本語モ
デル校、リオ・デ・
ジャネイロ日本人学校
などから約300人が
集まった。
第5回リオ・デ・
ジャネイロ州野球大会
で、二度目の優勝を果
たしたリオ・ニッケイ
チームが紹介されたほ
か、カラオケやYOS
AKOIソランが披
露され、会場は盛り上
がりを見せた。

与儀会長は、「2001
0年もすべての日系団体
の繁栄を祈る。調和を
もって相互に友情を育め
ば」と述べ、鏡割りが
行われた。出席者全員で
「渡伯同胞送別の歌」や
「蛍の光」を合唱した。
広場でついたばかりの
餅を使って用意された3
村吉井マスマミさん(7
6、二世)は、「お雑煮
が美味しい。日本の正月
を感じます」と穏やかな
表情を見せた。

新生吟社月報 500号達成

川柳の「サンパウロ新

ス広場まで列ができた
とイベントが根付いたこ
とを喜ぶ池崎会長は、
「世界では経済危機が騒
がれたが、リベルダーデ

入者が増えつづけ史上最
高額の1億4490万レ
アルに。乗用車580万
アルが買えて、銀行に貯金
すれば毎月の利子は72
万5千レアルとかで、利
子だけで毎月、家が一軒
買えるほどの額。とあれ
ば、年末のロツテリカの
行列も納得。
今年2月桜風舎から翻

生吟社月報」の記念すべ
き500号が昨年、発刊
された。2001年6月
の400号から8年以上
かけて到達した。今年
創設60周年を迎える同
社主幹の柿嶋さだ子さん
は、「一次世代にバトン
タッチし、次の600号
に向かつて、新たな首発
と発展を目指す」と記し
ている。

祝吟の中から三句。
「受け継いだその力走が
切るテープ」(森山天
拜)、「千号へまだ五合
目と仰ぐ峰」(荒井花
生)、「先輩の拍手聞こ
える五〇〇号」(藤倉澄
湖)。

刊行物『蜂鳥』
『蜂鳥』11月号(第
285号)が発行され
た。巻頭「伝統俳句の継
承」(野見山朱鳥「助言
抄より」)、遺句集「蜂
鳥」より「春の闇」(富
重かずま)、「耕」(9月
号より)「さくら」(加藤
耕子)、「蜂鳥集」(久子
選)、「蜂鳥集評」(そ
の三句「昔春やどこかで

訳出版されたブラジルを
代表するジラルド著の
「フリツチス ふしぎな
色の旅」(ELIOS)。こ
の絵本は、一昨年移民百
周年記念式典のため来伯
した皇太子さまに、ジヨ
ゼ・セーラ聖州知事から
翻訳版が贈られたことで
も知られる。当時6歳
だった愛子さまへの贈り
物だったよう。

娘にたんぼほの絮吹きか
ける」(広田ユキ)、「
ジャツカいくつコルコ
バードの木漏れ陽に」
(関山玲子)、特別作品
「カ力才熟る」(小原加
代、その一句「籠編んで
インジヨ等唄ふ春の
歌」)ほか。

刊行物『椰子樹』
『椰子樹』2009年
12月号(343号)が
発行された。「移民の秀
歌二十首(四)」(藤田
朝日子)、「ブラジル短
歌植物辞典(58)」
(上妻博彦)、短歌で
綴る女性の移民史「百年
の移民妻たち(12)」
(高橋暎子、その三首
「日系に生れし事を嘆き
しを秘めごととしてぬく
めきたりぬ」(細江仙
子、1966)、「移民
妻と蔑みさるる事に抗い
て歌詠む吾か裡なる願
は」(川田幸子、197
9)、「何時よりか手荒
くなりしことなどを思い
つつ温き鶏を割きおり」
(中川原正子、197
7)」、ほか。

「世界では経済危機が騒
がれたが、リベルダーデ
は、一昨年移民百
周年記念式典のため来伯
した皇太子さまに、ジヨ
ゼ・セーラ聖州知事から
翻訳版が贈られたことで
も知られる。当時6歳
だった愛子さまへの贈り
物だったよう。